

### 3 住民アンケートの調査結果

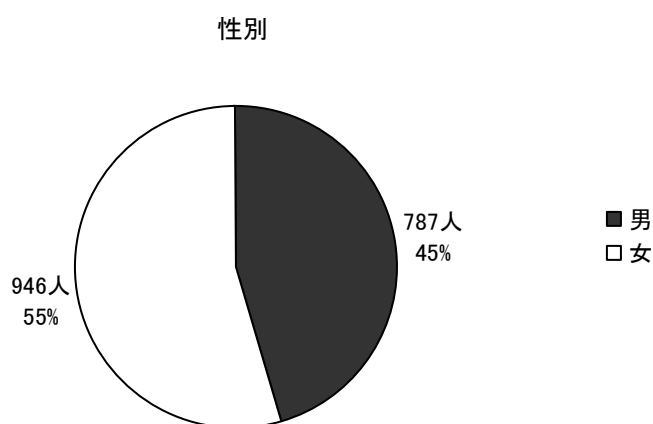
沿岸 14 市町村の津波避難対象地区に住民票のある 16 歳以上の住民(94,699 人(平成 13 年 1 月 1 日現在))の中から無作為に 5,000 名を抽出し、郵送によるアンケート調査をおこなった。調査は準備の都合から 3 期に分けて行った。

10 月 19 日発送分(11 月 2 日提出期限) 種市町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、山田町、釜石市、大船渡市、陸前高田市

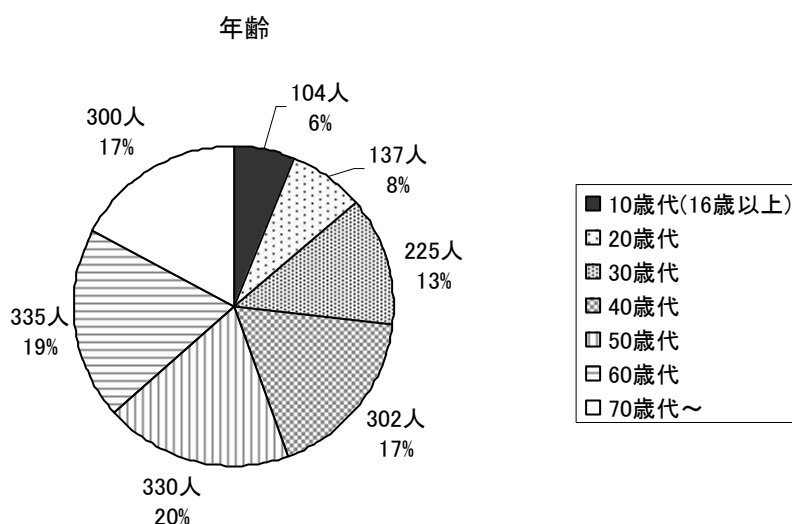
10 月 26 日発送分(11 月 9 日提出期限) 大槌町、三陸町

11 月 2 日発送分(11 月 16 日提出期限) 田老町

回収者数は 1,829 人(35.9%)、有効回答者数は 1,733 人(34.0%)であった。(年齢・性別の記入されているものを有効回答とした。)



○ 有効回答者の内訳は男 787 名、女 946 名であった。

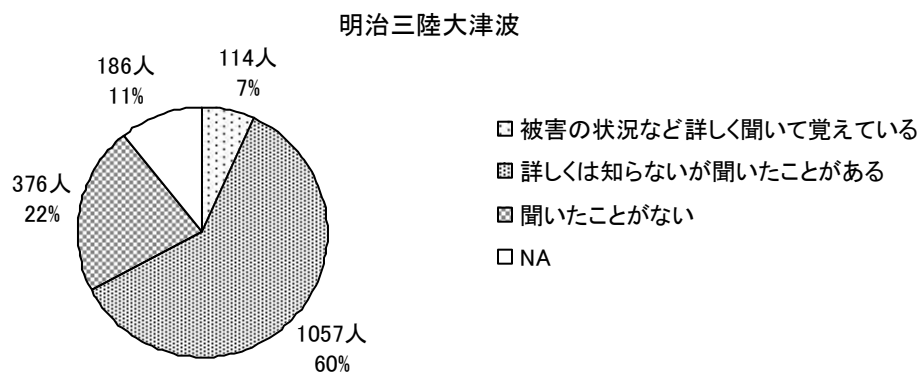


○年齢構成は、60 歳代(334 人)、50 歳代(330 人)が最も多く、次いで 40 歳代(302 人)、70 歳代(300 人)と続いている。10 歳代は、16 歳以上を対象としているので最も少なくなっている。

(津波体験について)

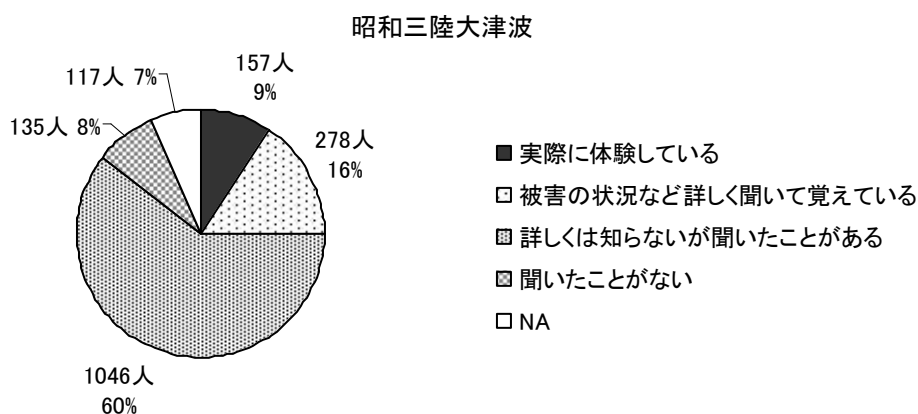
問1 過去の津波を体験又は話を聞いたことがありますか。

ア 明治三陸大津波(明治29年)について(一つ選択)



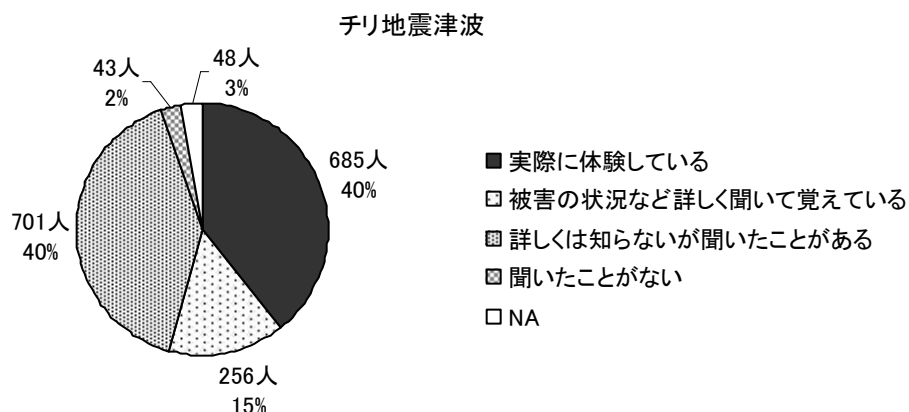
○「詳しくは知らないが聞いたことがある」という人が一番多く 1057 人 (60%) で、「聞いたことがない」という人は 376 人 (22%) であった。

イ 昭和三陸大津波(昭和8年)について(一つ選択)



○一番多いのは「詳しくは知らないが聞いたことがある」という人で 1046 人 (60%)、次に多いのが「被害の状況など詳しく聞いて覚えている」で 278 人(16%)であった。「実際に体験している」という人は 157 人 (9%) であった。

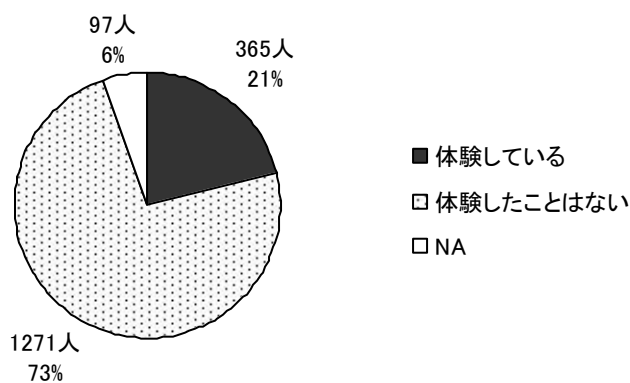
ウ チリ地震津波(昭和35年)について(一つ選択)



○「詳しくは知らないが聞いたことがある」が一番多く 701 人(40%)で、次いで多いのは「実際に体験している」という人で 685 人(40%)であった。また、「聞いたことがない」という人は 43 人 (2%) であった。

問 2 その他の津波体験についてお伺いします。  
ア 前問以外の津波を体験していますか。(一つ選択)

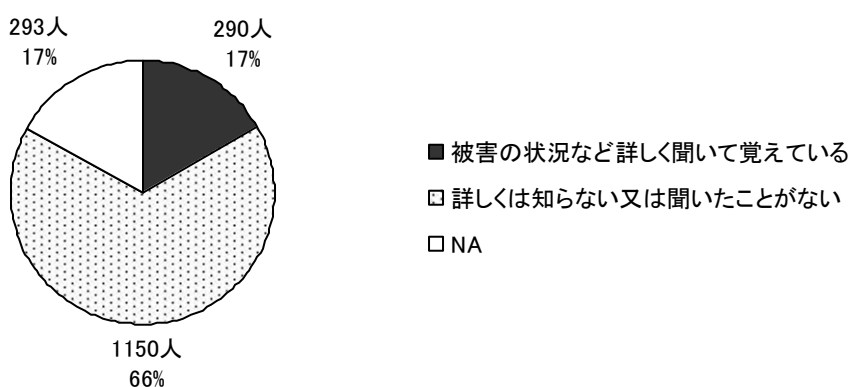
津波体験の有無



○「体験したことはない」という人が 7 割を超えている。

イ 問 1 以外の津波について、被害の状況など詳しく聞いて覚えていますか。(一つ選択)

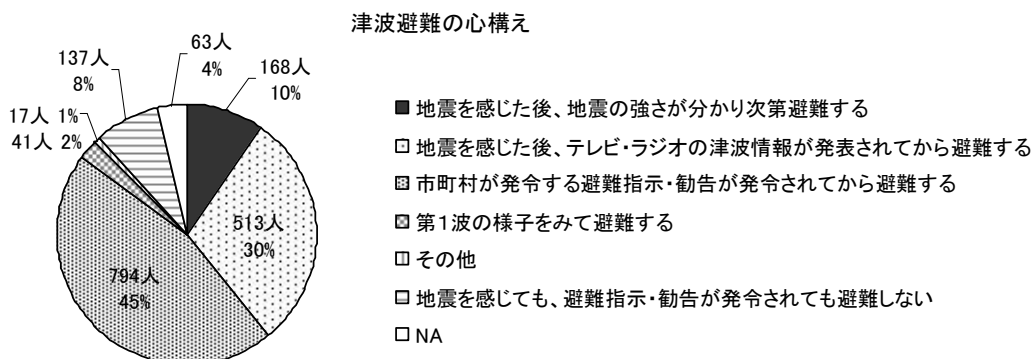
津波見聞の有無



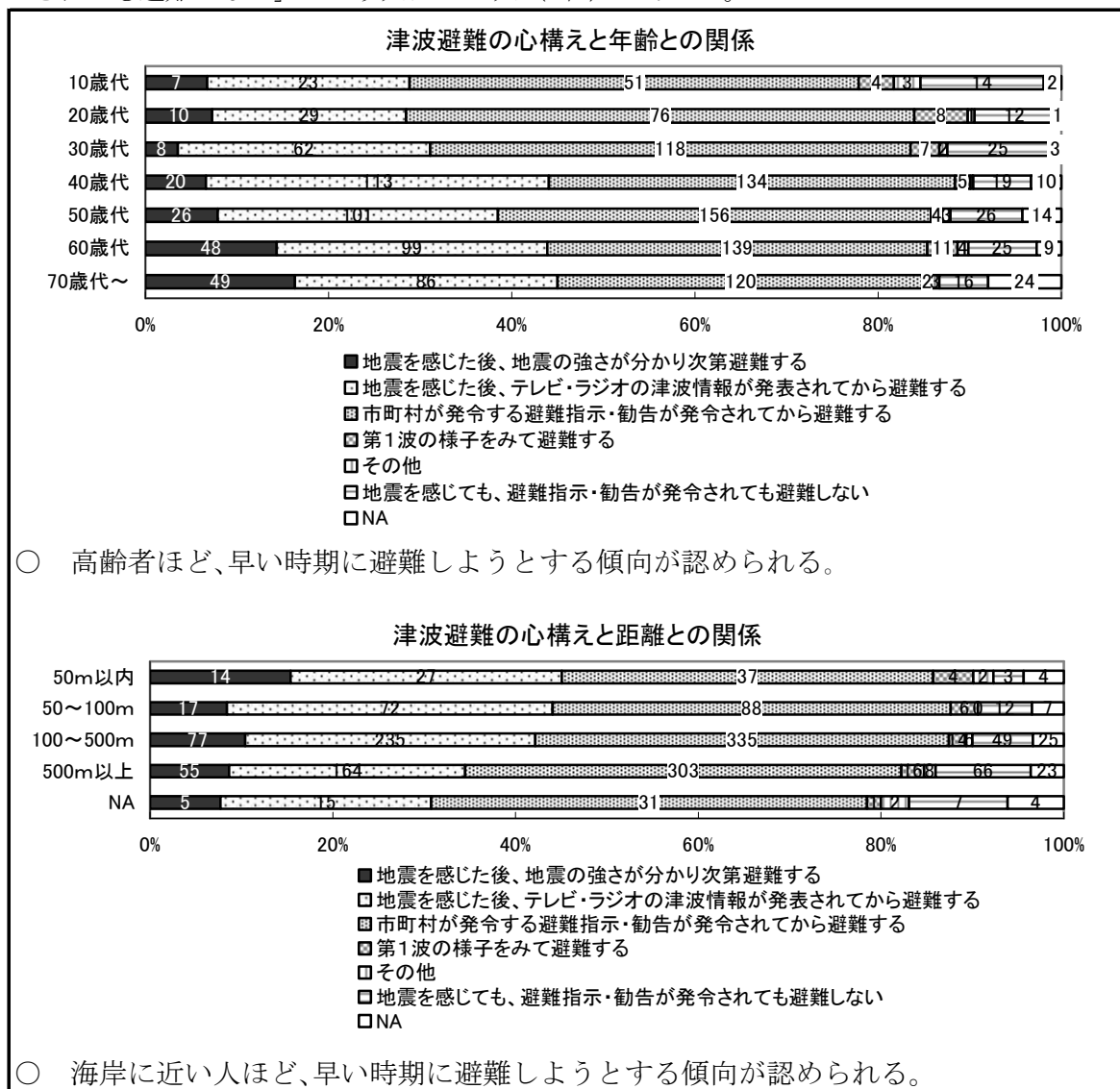
○6 割以上の方が「詳しくは知らない又は聞いたことがない」という回答であった。

(津波避難の心構え)

問3 津波避難の心構えをお聞かせください。(一つ選択)



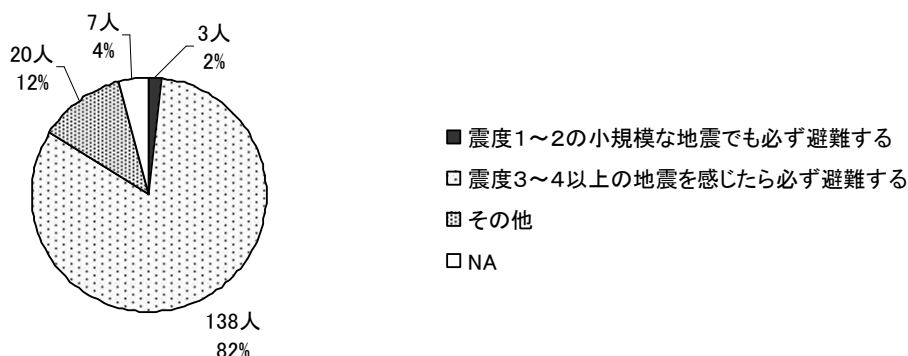
○ 「市町村が発令する避難指示・勧告が発令されてから避難する」という人が794人(45%)で一番多く、次いで「地震を感じた後、テレビ・ラジオの津波情報が発表されてから避難する」という人が513人(30%)となっている。「地震を感じても、避難指示・勧告が発令されても避難しない」という人は137人(8%)であった。



問 3-2-ア どのような地震の時に避難しますか。(一つ選択)

前問で「地震を感じた後、地震の強さが分かり次第避難する」と回答した 168 名が対象

避難する地震の程度

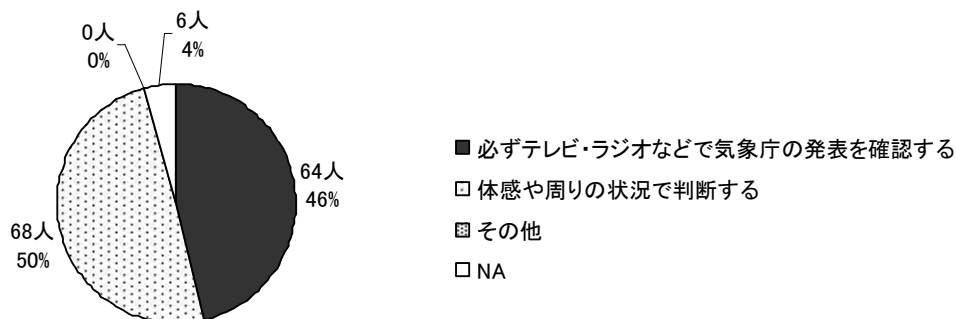


○「震度 3~4 以上の地震を感じたら必ず避難する」という人がほとんどで、震度 1~2 の小規模な地震ではほとんどの人が避難しないと回答している。この回答では、「震度 1~2 では避難しない」人は全て「震度 3~4」に廻った可能性があり、「震度 3~4」で避難するのか「震度 5~6」で避難するのかは、さらに調査する必要がある。

問 3-2-イ 「震度 3~4」の震度をどういった方法で確認しますか。(一つ選択)

前問で「震度 3~4 以上の地震を感じたら必ず避難する」と回答した 138 名が対象

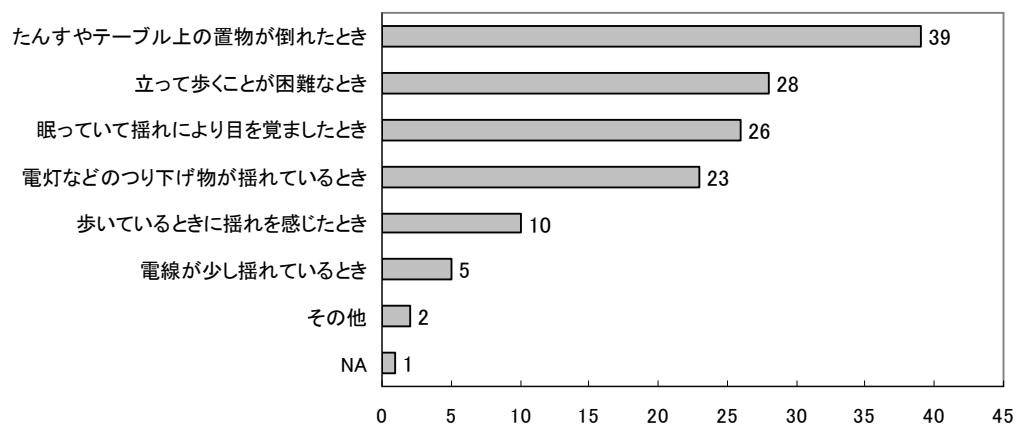
震度の確認方法



○「必ずテレビ・ラジオなどで気象庁の発表を確認する」が 64 人 (46%)、「体感や周りの状況で判断する」が 68 人 (50%) でほぼ同数であった。

問 3-2-ウ どのくらいの揺れを「震度 3~4」と判断しますか。(複数回答可)  
前問で「体感や周りの状況で判断する」と回答した 68 名が対象

震度3~4の判断

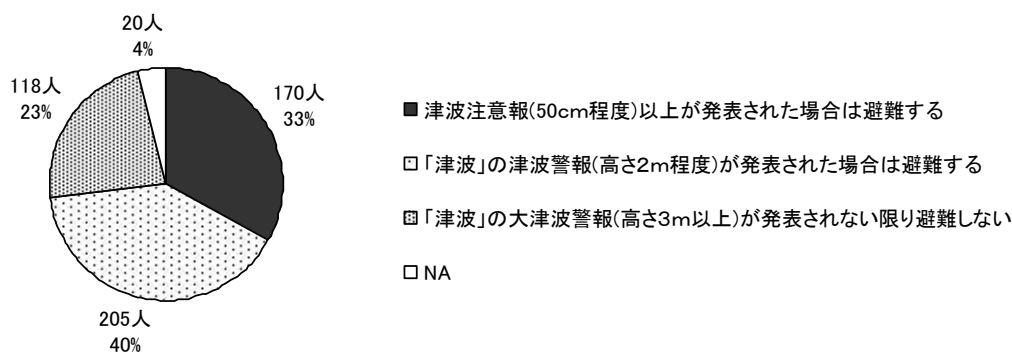


○一番多いのは「たんすやテーブル上の置物が倒れたとき」で、次いで「立って歩くことが困難なとき」「眠っていて揺れにより目を覚ましたとき」が多かった。

問 3-3 どのような発表の時に避難しますか。(一つ選択)

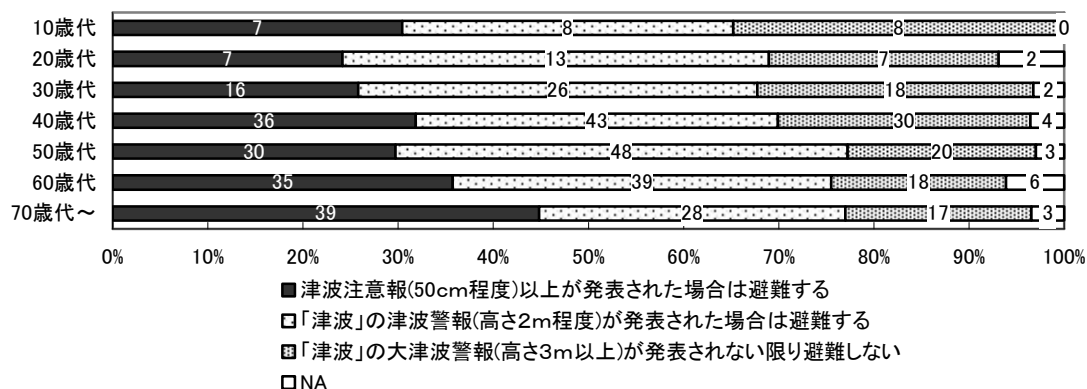
問 3 で「地震を感じた後、テレビ、ラジオの津波情報が発表されてから避難する」と回答した 513 名が対象

避難を始める発表について



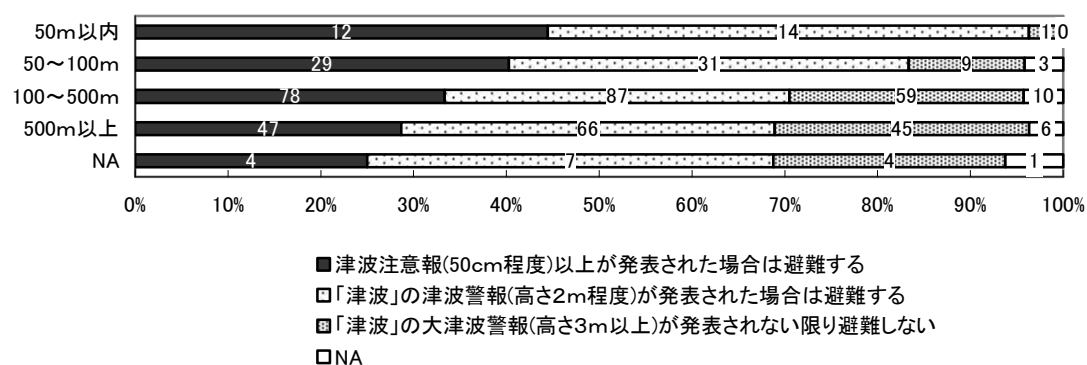
○一番多いのは「津波警報(高さ 2m 程度)が発表された場合は避難する」で 205 人(40%)、次が「津波注意報(50cm 程度)が発令された場合は避難する」で 170 人(33%)であった。

避難を始める発表についてと年齢との関係



○ 問3と同じく、高齢者ほど、小さな津波の警報でも避難しようとする傾向が見られる。

避難を始める発表についてと海岸からの距離との関係

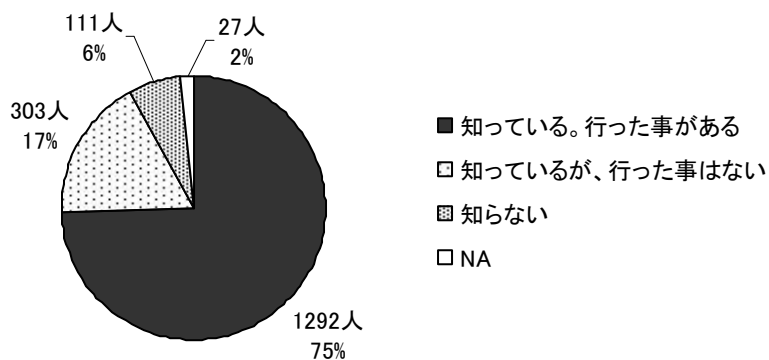


○ 問3と同じく、海岸からの距離が近いほど、小さな津波の警報でも避難しようとする傾向が見られる。

(指定避難場所について)

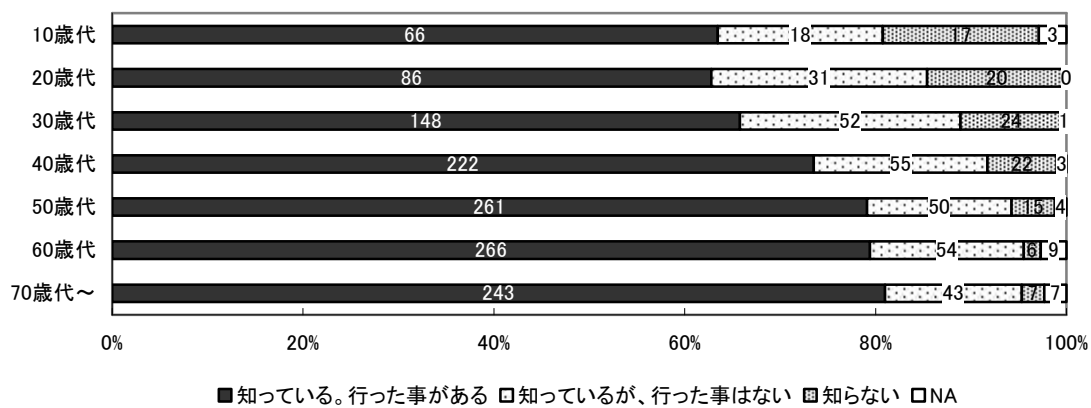
問4 津波の際の指定避難場所を知っていますか。(一つ選択)

津波避難場所の認知



○ 「知っているし行った事がある」という人が 1292 人(75%)で一番多く、「知っているが行った事はない」という人は 303 人(17%)、「知らない」という人は 111 人(6%)であった。

津波避難場所の認知と年齢との関係

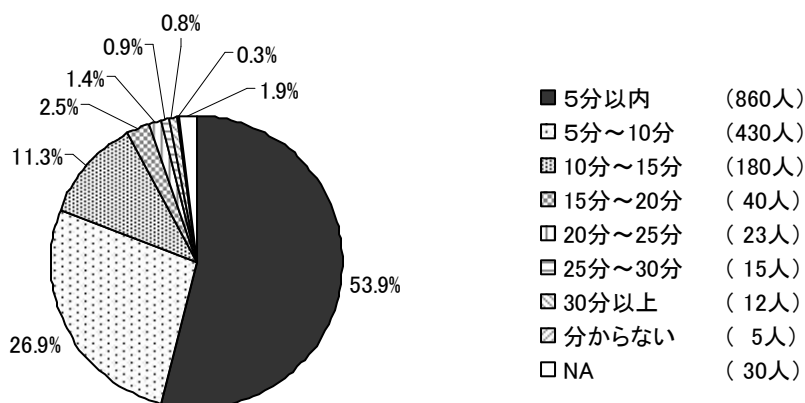


○ 若年層ほど、津波避難先への認知度が低い。



問 4-2 避難場所まで歩いて何分かかりますか。(一つ選択)  
前問で「避難場所を知っている」と回答した 1595 名が対象

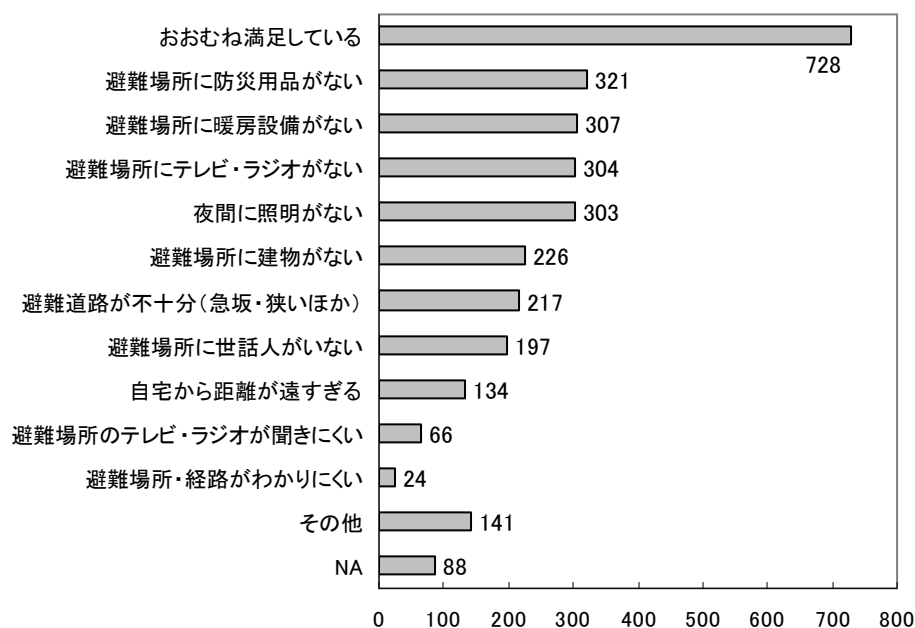
避難場所までの所要時間



○5分以内という人が半分以上で一番多かった。しかし、15分以上という人も90人(5%)にのぼった。

問 4-3 避難場所について、問題点を感じていますか。(複数回答可)  
問 4 で「避難場所を知っている」と回答した 1595 名が対象

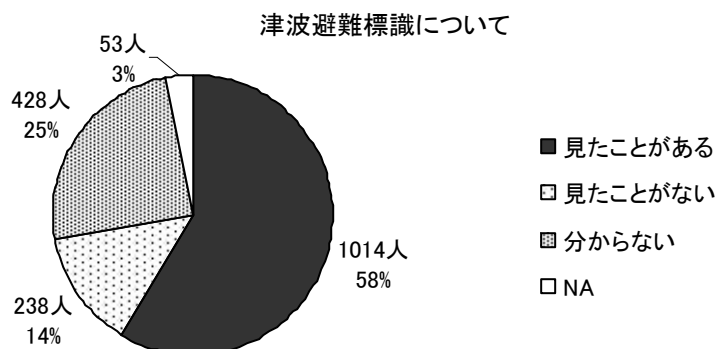
避難場所の問題点



○「おおむね満足している」という人が多かったが、問題点としては「避難場所に防災用品がない」「暖房設備がない」「テレビ・ラジオがない」「夜間に照明がない」等が挙げられた。避難場所には施設が建っていない場所もあるため、このような結果となったと考えられる。また、周知不足ということも考えられる。(たとえば、避難施設の 99.9%には暖房設備が用意されている。)

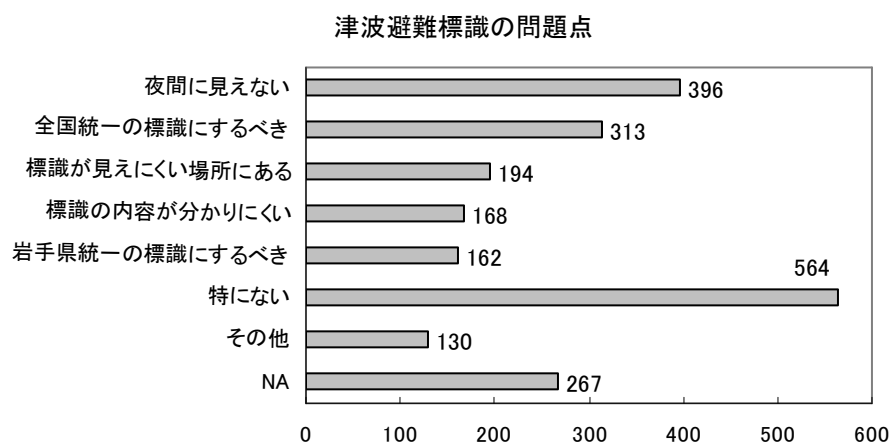
(津波避難標識について)

問5 津波避難標識を知っていますか。(一つ選択)

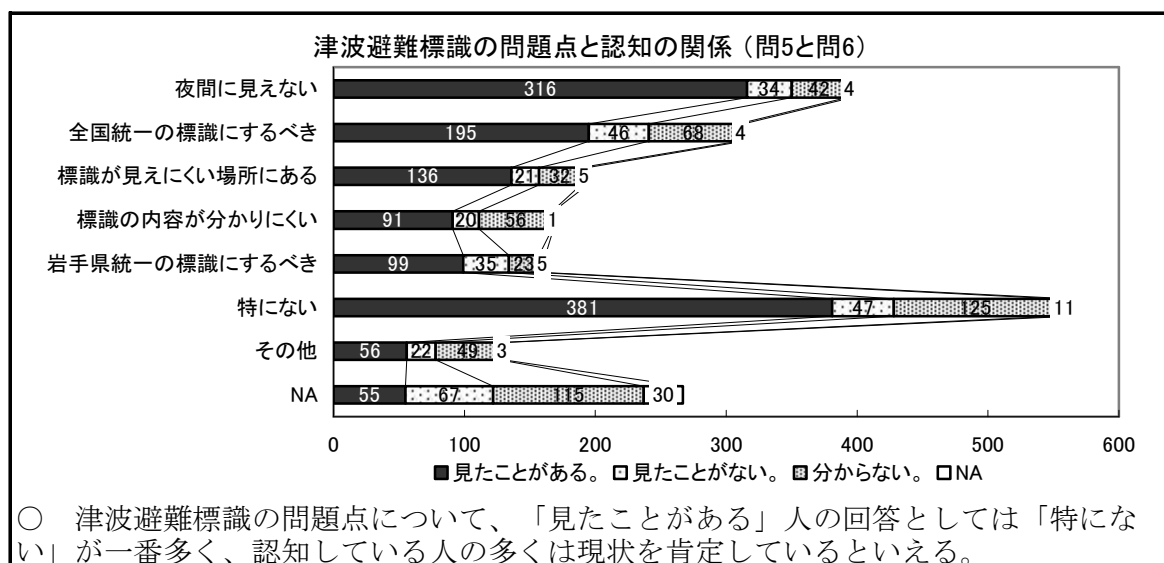


○過半数は「見たことがある」という回答であったが、「見たことがない」という人と「分からない」という人を合わせると666人(39%)にのぼった。

問6 津波避難標識について、問題点を感じていますか。(複数回答可)



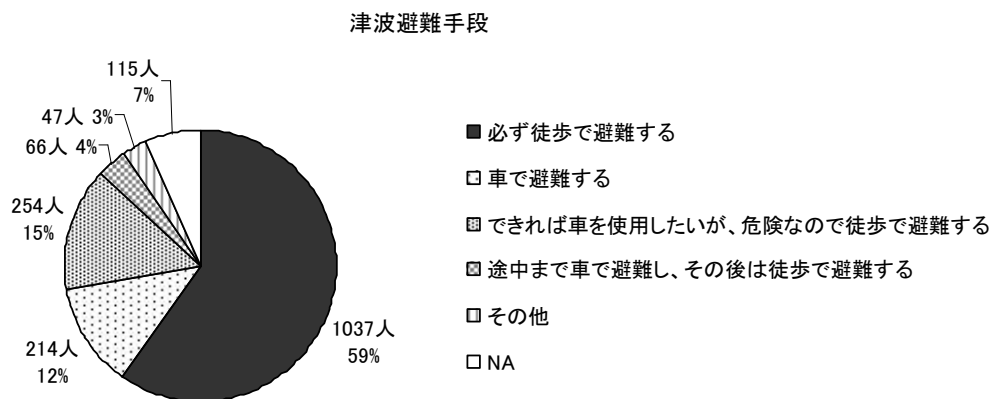
○「夜間に見えない」が一番多く、他に「標識が見えにくい場所にある」「全国統一の標識にするべき」「岩手県統一の標識にするべき」等があった。



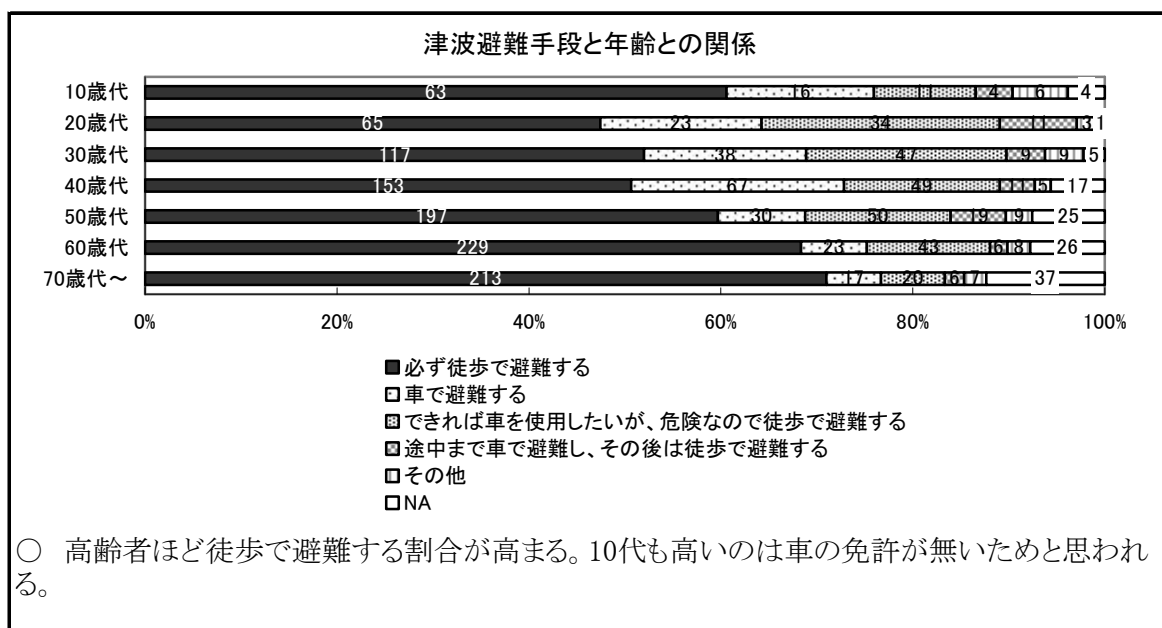
○津波避難標識の問題点について、「見たことがある」人の回答としては「特にない」が一番多く、認知している人の多くは現状を肯定しているといえる。

(津波避難方法について)

問7 津波の際はこういった手段で避難しますか。(一つ選択)

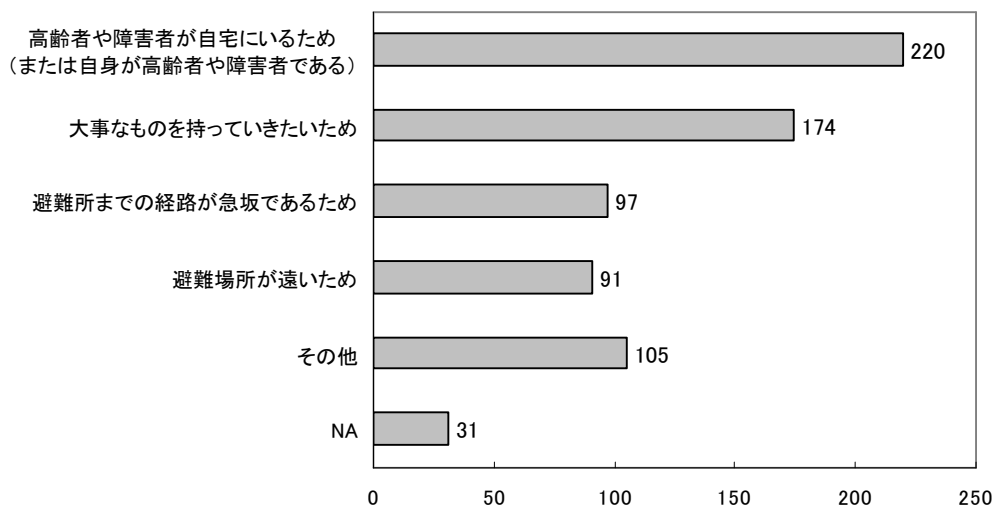


○ 「必ず徒歩で避難する」が約6割で一番多かったが、「車で避難する」と「途中で車で避難し、その後は徒歩で避難する」を合わせると307人(16%)にのぼった。



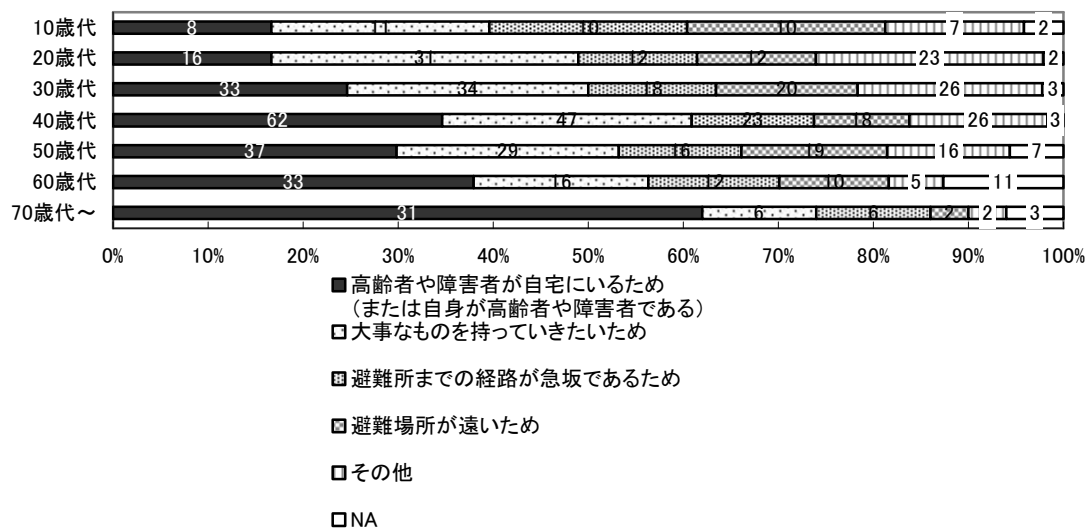
問 7-2 車を使用する、あるいは使用したい理由はなんですか。(複数回答可)  
前問で車を使用する、あるいは使用したいと回答した 534 名が対象

車を使用する理由



○「高齢者や障害者が自宅にいる(または自身が高齢者や障害者である)ため」という人が 220 人で最も多く、次いで「大事なものを持っていきたいため」となっている。「避難場所が遠いため」と回答した人は 91 人(有効回答者全体の 5%)で、問 4-2 で避難場所まで 15 分以上という人も 5%であり概ね一致する。

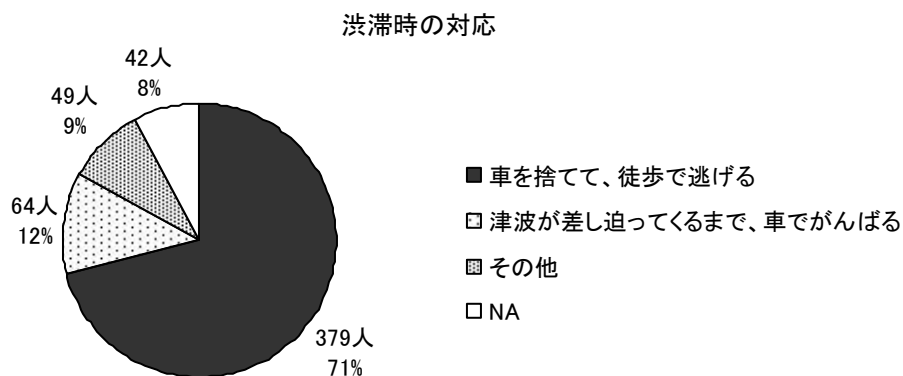
車を使用する理由と年齢との関係



○高齢者は高齢者や障害者を運ぶため、若年者は大事なものを運ぶため、車で避難したいと考えている。若年者の大事なものには車自体が入っていると思われる。

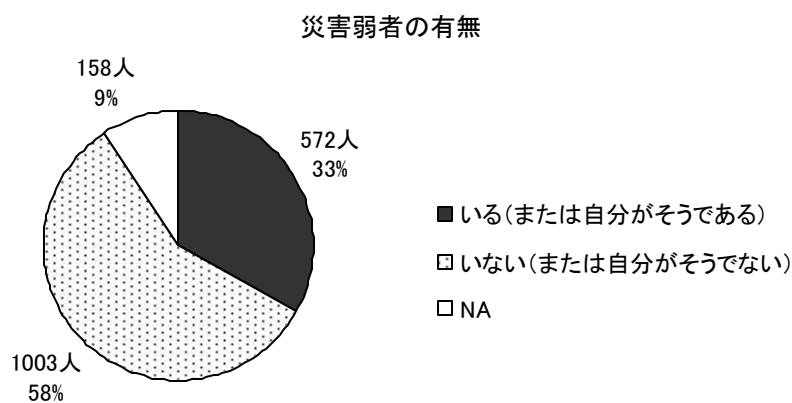
問 7-3 車で避難する途中で、万一渋滞していた場合自分はどうすると思いますか。(一つ選択)

問 7 で車を使用する、あるいは使用したいと回答した 534 名が対象



○「車を捨てて、徒歩で逃げる」という人がほとんどで 379 人(71%)、「津波が差し迫ってくるまで、車でがんばる」という人は 64 人 (12%) であった。

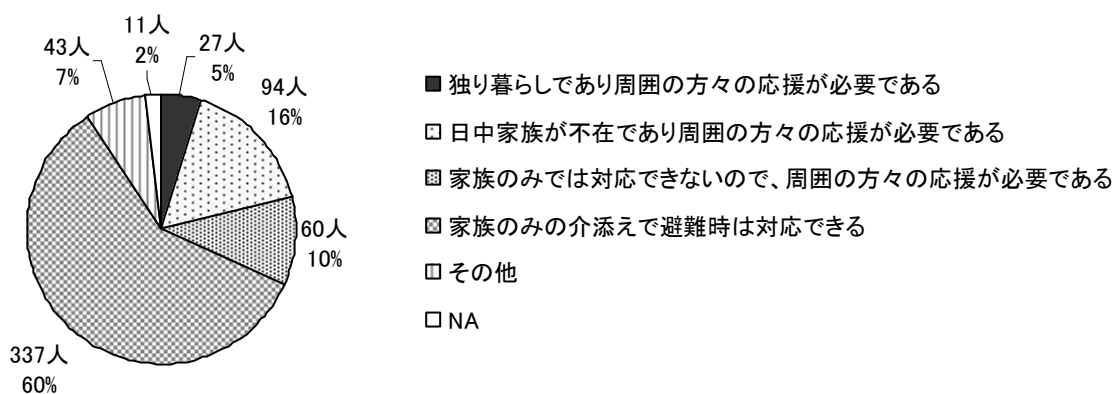
問 8 お宅には、避難時に介添えが必要な高齢者や障害者(いわゆる災害弱者)がいますか。または、あなた御自身が災害弱者ですか。(一つ選択)



○自宅に災害弱者がいる(または自分がそうである)という人は 572 人で約 3 割であった。

問 8-2 津波避難時には、どのような状況となりますか。(一つ選択)  
前問で「災害弱者がいる」と回答した 572 名が対象

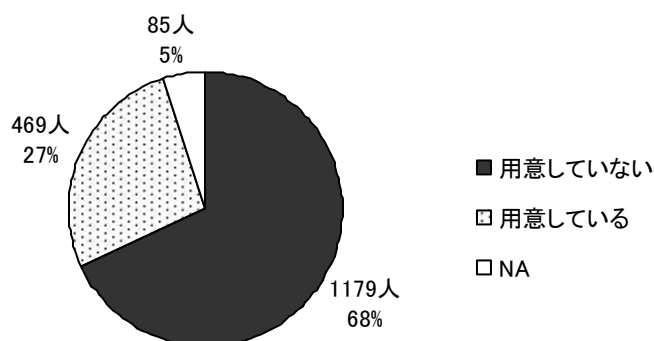
災害弱者のいる世帯の津波避難対応



○日中だけという人も含めると「周囲の方々の応援が必要」と回答した人は、181 人(31%)にのぼった。これは有効回答者の 10%にあたり、津波避難対象地区の約 1 割の世帯は周囲の応援を必要としていることになる。

問 9 避難のため、普段から非常持ち出し用品を用意していますか。(一つ選択)

非常持ち出し用品の備え



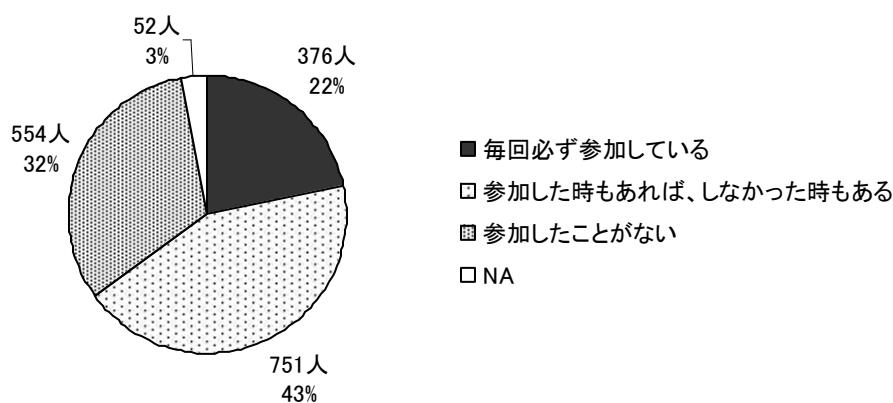
○「用意していない人」という人が 1,179 人 (68%) で 7 割近くへのぼり、「用意している」という人は 469 人 (27%) であった。

(避難訓練について)

問 10 津波避難訓練についてお伺いします。

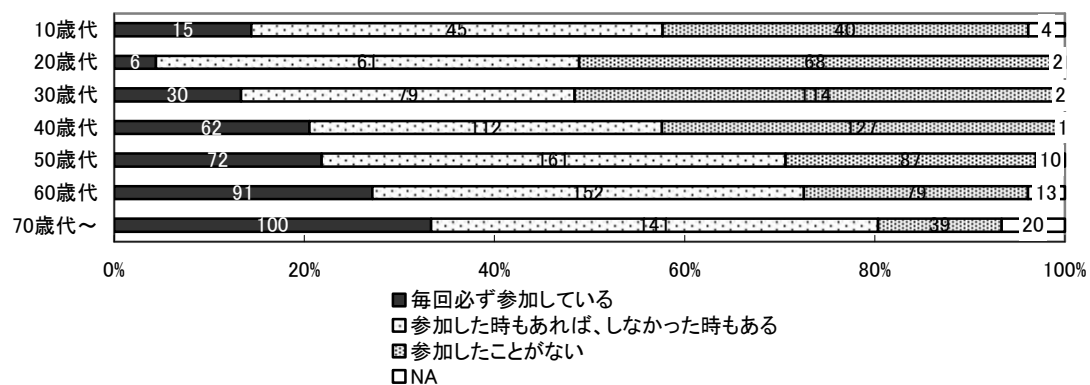
ア 過去の避難訓練の参加状況はどうか。(一つ選択)

過去の津波避難訓練への参加状況

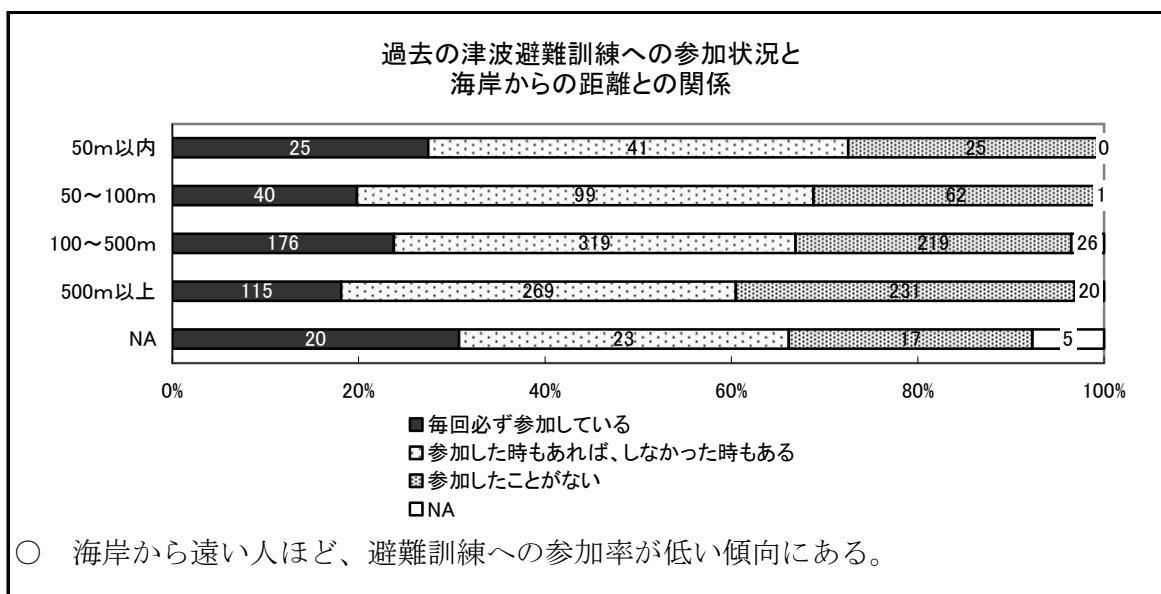


○「参加したことがない」という人が3割以上にものぼった。反面「毎回必ず参加している」という人は2割程度であった。年齢別には高齢者ほど「毎回必ず参加している」という人が多く、20～30代に「参加したことがない」という人が多い。

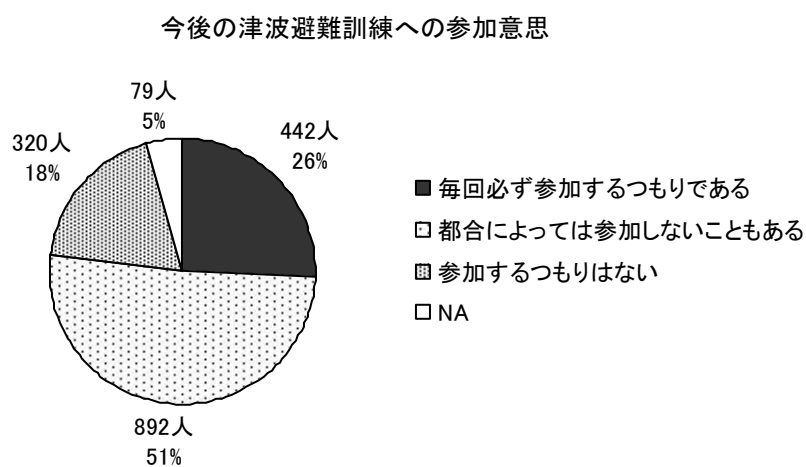
過去の津波避難訓練への参加状況と年齢との関係



○高齢者ほど避難訓練への参加比率が高い。10歳代が高いのは、親や学校の指導によると思われる。



イ 今後の避難訓練への参加意思はどうですか。(一つ選択)

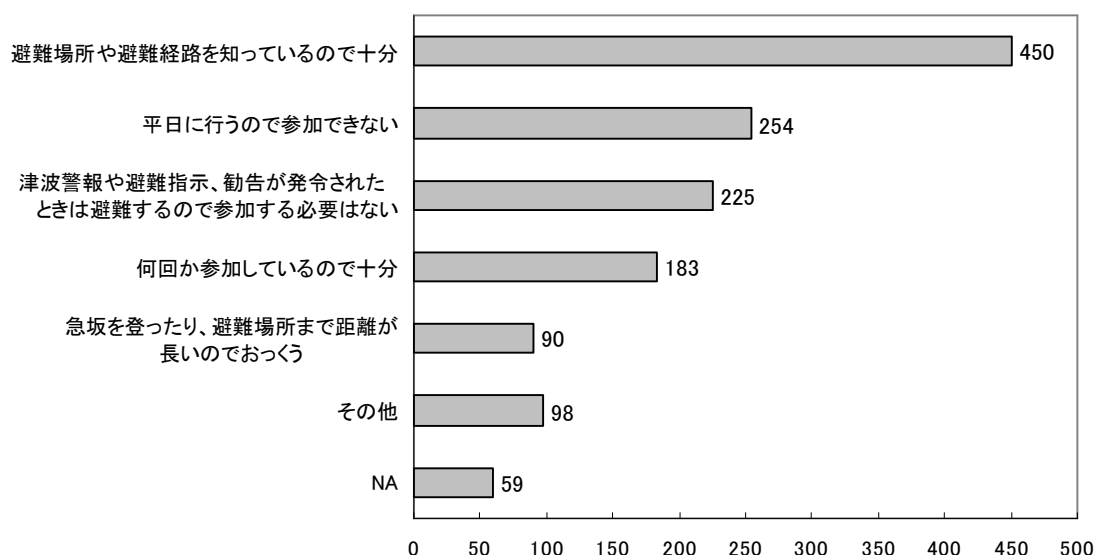


○ 「過去の津波避難訓練への参加状況」(問 10)と比較すると、参加すると答えた人は増加し、参加しないという人は減少している。



問 10-2 今後の津波避難訓練に参加しない理由はなんですか。(複数回答可)  
前問で「都合によっては参加しないこともある」「参加するつもりはない」と回答した  
1212 名が対象

今後の津波避難訓練に参加しない理由

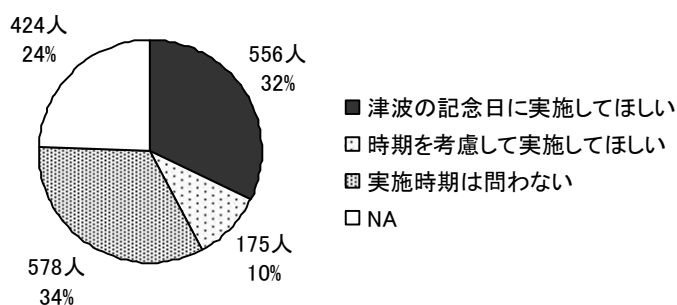


○「避難場所や避難経路を知っているので十分」という人が 450 人で一番多く、他に「平日に行うので参加できない」「津波警報や避難指示、勧告が発令されたときは避難するので参加する必要はない」「何回か参加しているので十分」等があった。

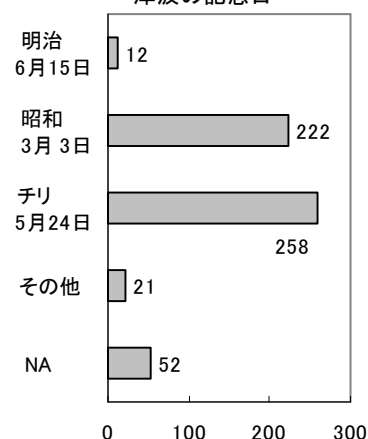
問 11 避難訓練実施についての要望をお聞かせください。

ア 実施時期について (一つ選択)

津波避難訓練の実施時期について



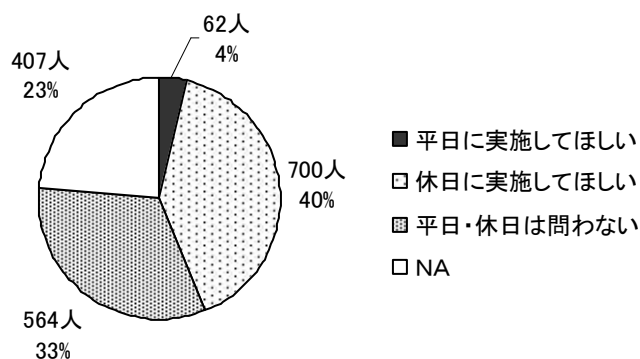
津波の記念日



○「津波の記念日に実施してほしい」という人が 556 人 (32%)、「実施時期は問わない」という人が 578 人 (34%) でほぼ同数であった。実施してほしい津波の記念日は、チリ地震津波が 258 人で最も多く、次が昭和三陸大津波で 222 人となっている。

## イ 実施日について（一つ選択）

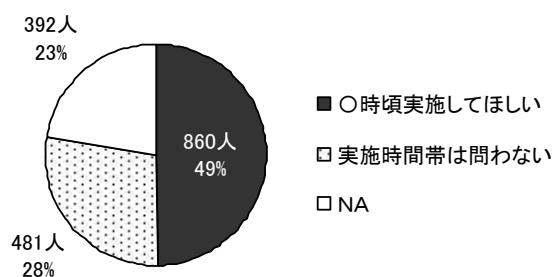
実施日について



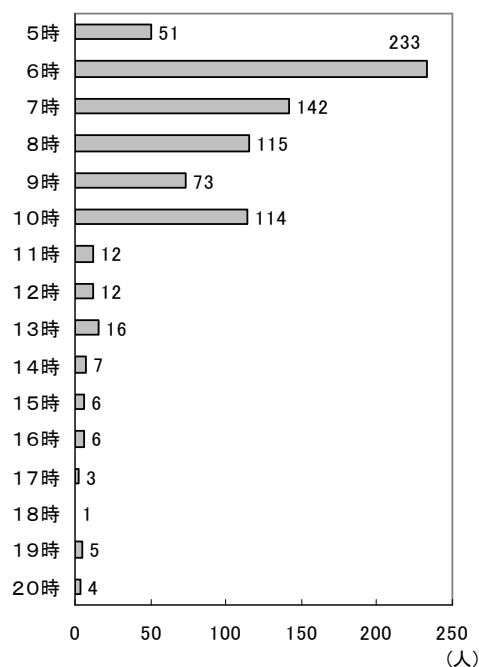
○「休日に実施してほしい」という人が約4割を占めている。逆に「平日に実施してほしい」という人は4%に満たなかった。

## ウ 実施時間帯について（一つ選択）

実施時間帯について



実施してほしい時間帯

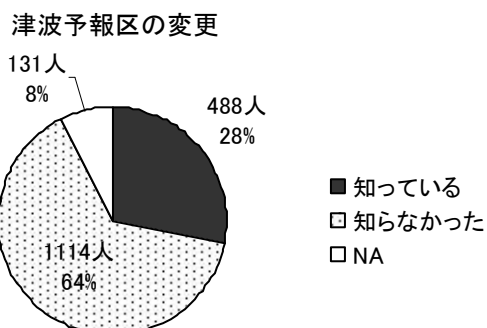


○「実施して欲しい時間帯がある」という人は860人(49%)、「実施時間帯は問わない」という人は481人(28%)であった。実施してほしい時間帯としては、6時を中心とした早朝が多かった。

(新しい津波予報について)

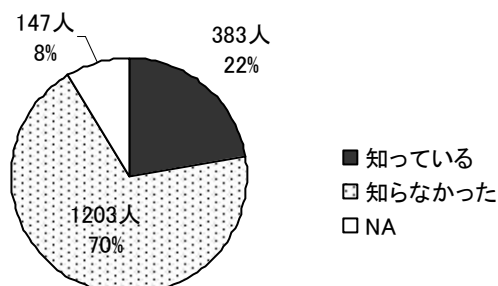
問 12 平成 11 年 4 月から気象庁において「新しい津波予報」が始まりましたが、その内容についてお伺いします。

ア 津波予報区が変更になったことは知っていますか。(一つ選択)



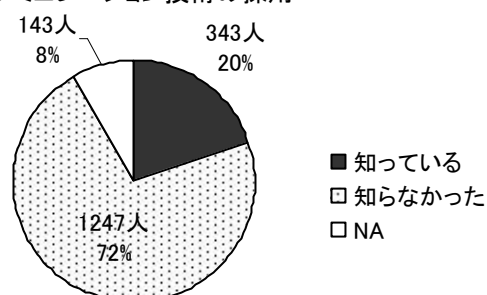
イ 津波の高さの発表区分が細分化されたことは知っていますか。(一つ選択)

津波の高さの発表区分の細分化



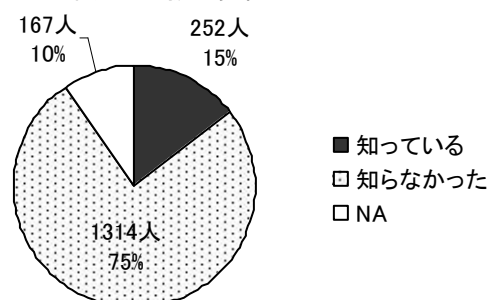
ウ 新しい津波予報が「数値シミュレーション」技術を用いていることを知っていますか。(一つ選択)

数値シミュレーション技術の採用

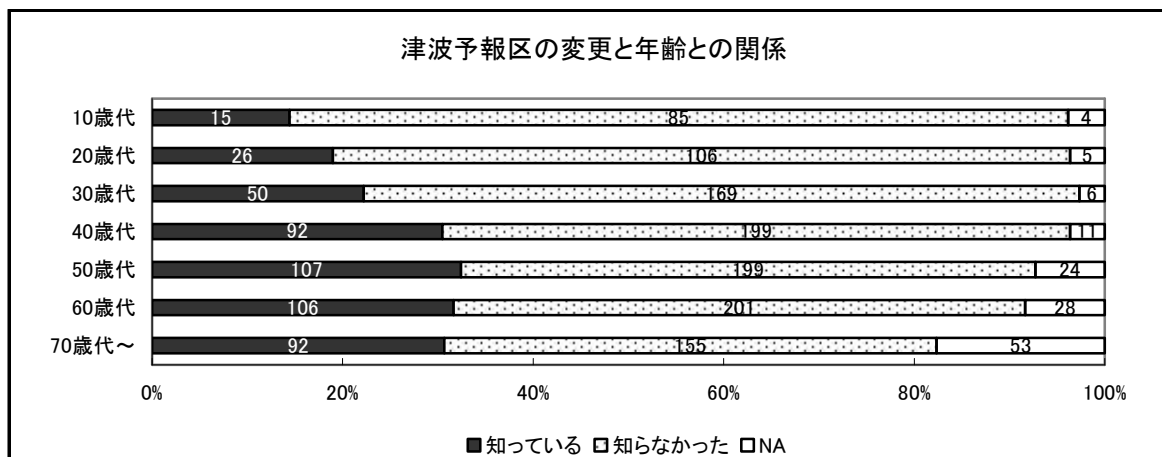


エ 被害のない津波の取り扱いについて、見直しを行ったことは知っていますか。(一つ選択)

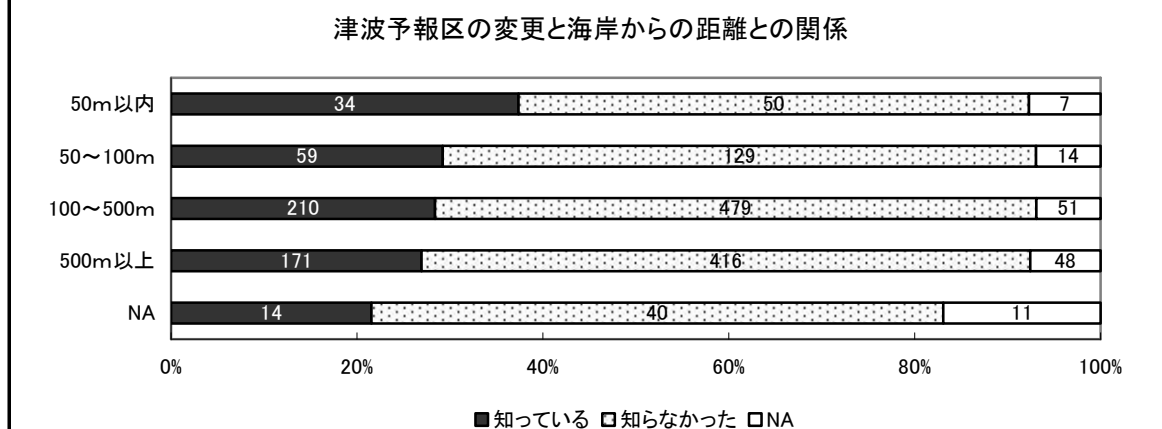
被害のない津波の取扱の見直し



○新しい津波予報については、「津波予報区の変更」「津波の高さの発表区分の細分化」「数値シミュレーション技術の採用」「被害のない津波の取扱の見直し」とも、約7割が知らなかった。

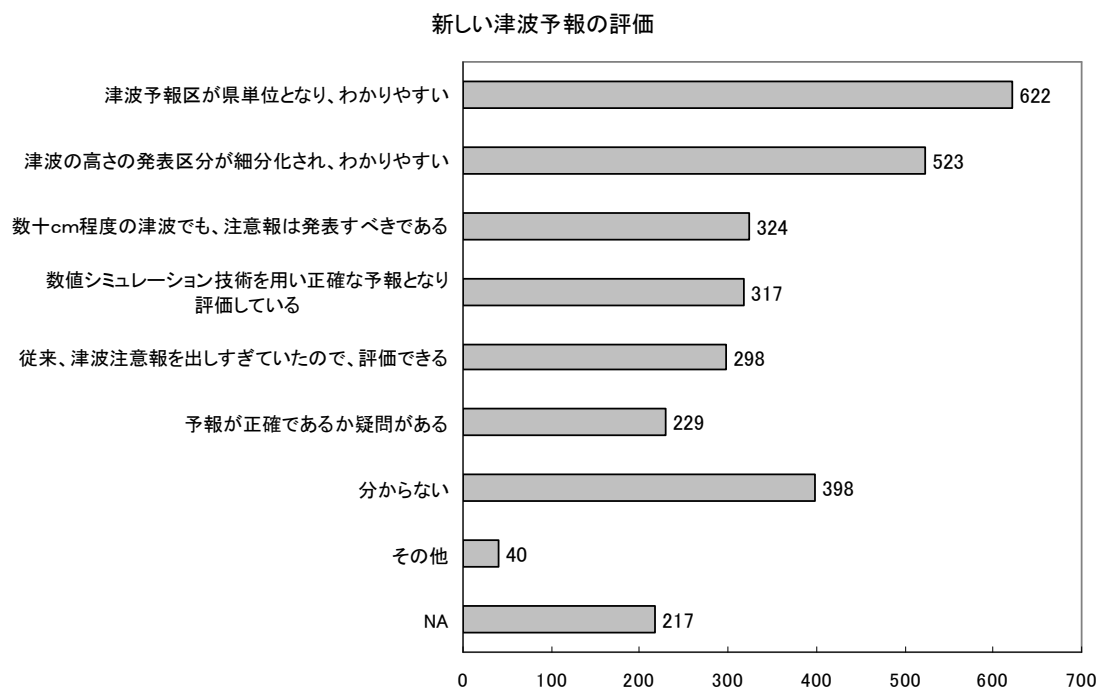


○ 高齢者ほど新しい津波予報について認知している。70歳代で無回答が上昇しているのは難解な内容を敬遠する傾向によるものであろうか。



○ 海岸に近い人ほど、新しい津波予報について認知している。普段から、津波に対する関心が高いことを物語っているといえよう。

問 13 「新しい津波予報」をどう評価していますか。(複数回答可)

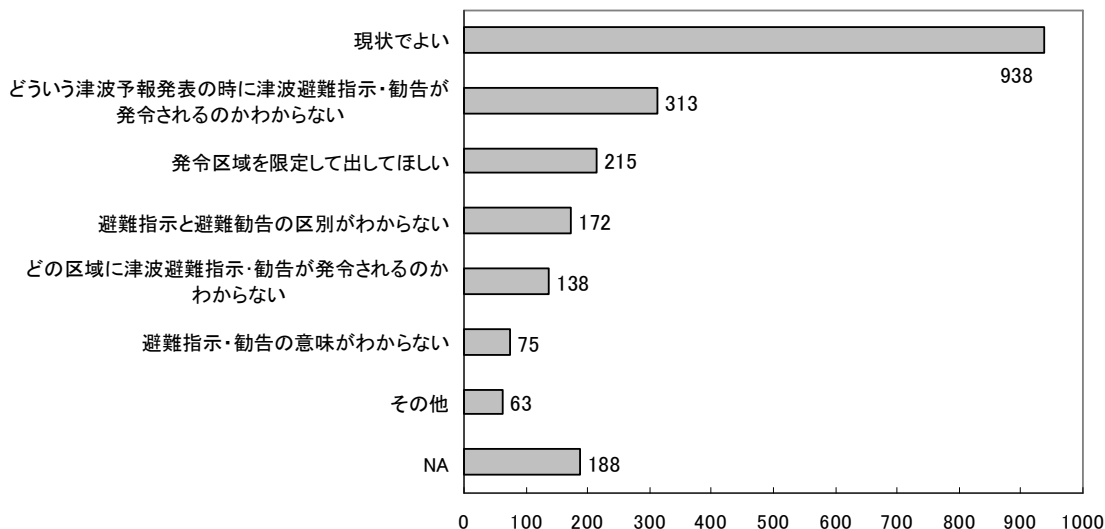


○「津波予報区が県単位となり、わかりやすい」「津波の高さの発表区分が細分化され、わかりやすい」という肯定的な意見が多かった反面、「数十cm程度の津波でも、注意報は発表すべきである」、「予報が正確であるか疑問である」という否定的な意見もあった。

(避難指示・勧告について)

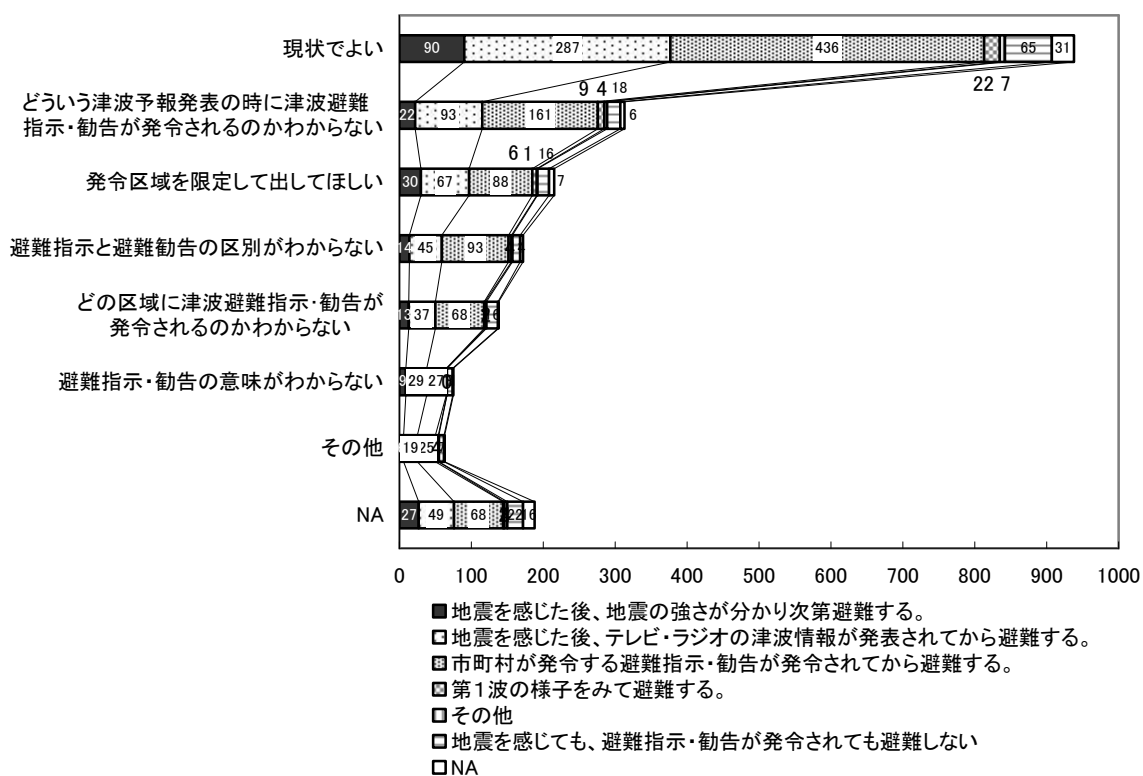
問 14 市町村が発令する避難指示・勧告についてどう感じていますか。(複数回答可)

市町村の避難指示・勧告への感想について



○「現状でよい」という人が938人で圧倒的に多かったが、「どういつ予報発表の時に津波避難指示・勧告が発表されるのかわからない」「発令区域を限定して出してほしい」「避難指示と勧告の区別がわからない」という意見も寄せられた。

市町村の避難指示・勧告への感想と避難の心構えの関係 (問3と問14)



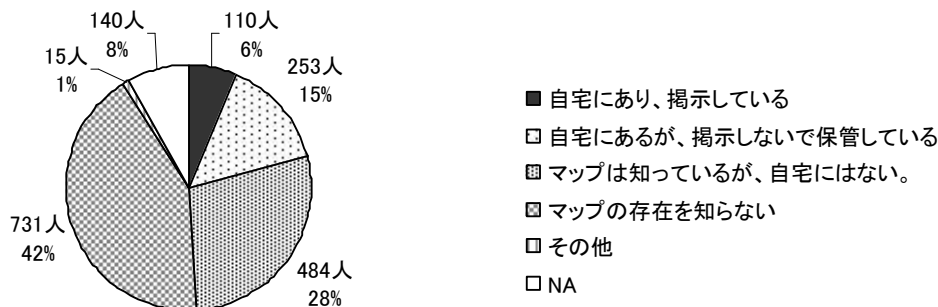
○ 問3で「避難指示・勧告が発令されてから避難する」と回答した人の中にも「どういつ津波予報発表の時に津波指示・勧告が発令されるかわからない」人や、「避難指示と勧告の区別がわからない」人が相当数いる。

(津波防災マップについて)

問 15 平成9年度に県と市町村が共同で作成した津波防災マップ(過去の三大津波の遡上実績図)についてお伺いします。

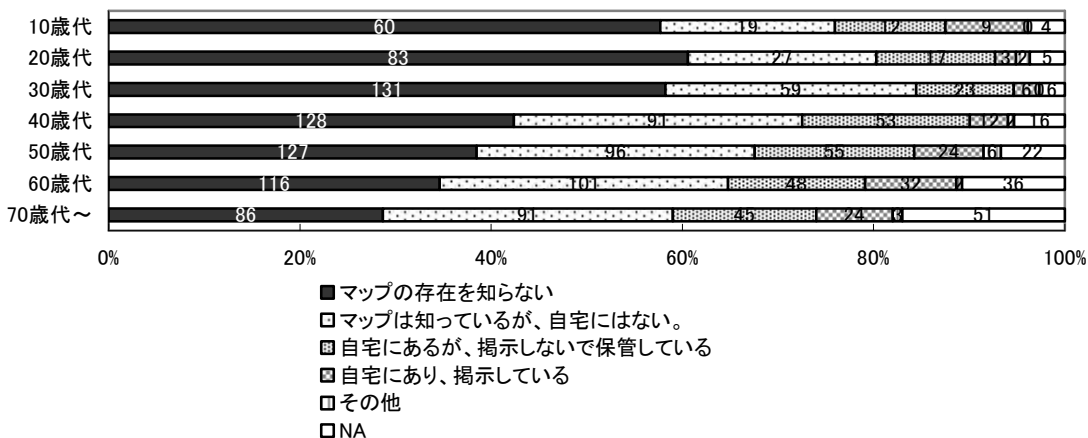
ア 現在マップは自宅にありますか。(一つ選択)

マップの所在



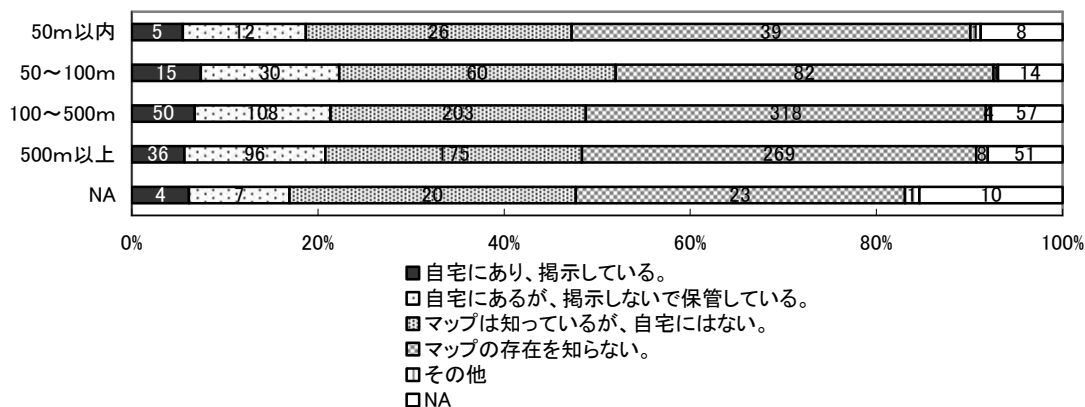
○ 「マップの存在を知らない」という人が731人(42%)で最も多く、次いで「マップは知っているが、自宅にはない」という人が多く484人(28%)であった。

マップの所在と年齢との関係



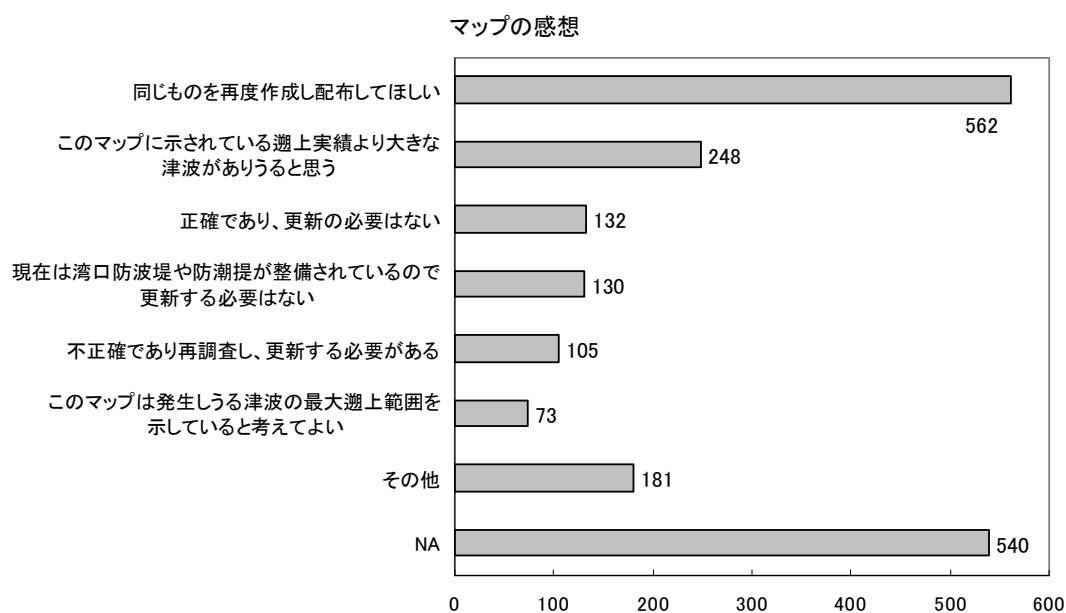
○ 若年者ほどマップの存在を知らない。津波体験が無いことのほか、住居の移動が頻繁に行われること、前回の配布以降に独立したことなどが考えられる。また、地域への関心の薄さから、通常の広報物と同一の対応をした可能性もある。

マップの所在と海岸からの距離との関係

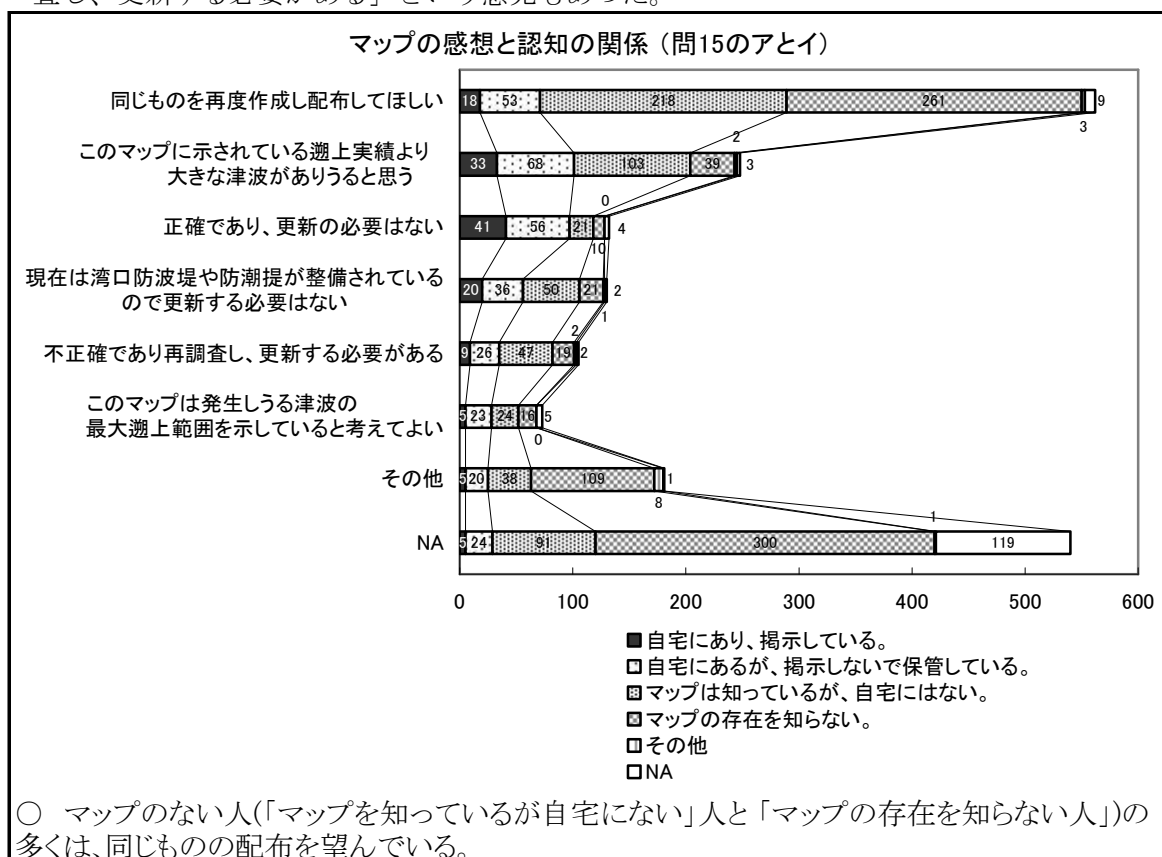


○ マップの所在については、海岸からの距離の傾向は認められない。広報物に対する日頃の対応に海岸からの距離による差が無いと考えられる。

イ このマップについてどうお考えですか。(複数回答可)



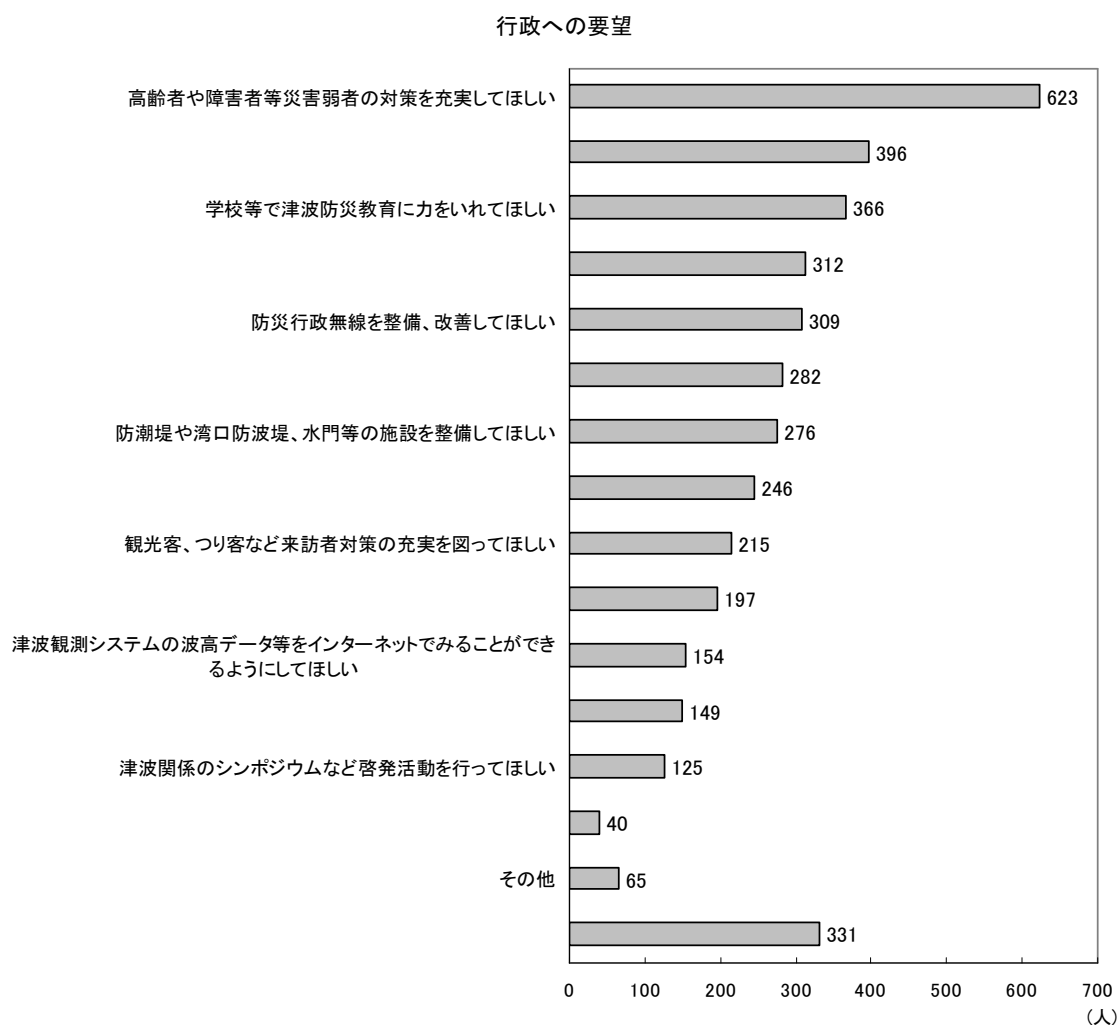
○ 「同じものを再度作成し配布してほしい」という人が 562 人で最も多かった。また、「このマップに示されている遡上実績より大きな津波がありうると思う」「不正確であり再調査し、更新する必要がある」という意見もあった。





(行政に望むことについて)

問 16 津波防災対策で行政に強くの望むことは何ですか。(複数回答可)



○「高年齢者や障害者等災害弱者の対策を充実してほしい」が 623 人で一番多く、次いで「避難道路・避難場所を整備してほしい」396 人、「学校等で津波防災教育に力をいれてほしい」366 人となっている。「防災訓練を多くやってほしい」は 40 人と行政に望むものとしては最も少なかった。